



ふうー。

ここ1ヶ月、なんだかんだで、いろいろありましたが、それはまた近々、まとめるとして。。。

(以下、久々の日記も長くなってし…🤔)

4月末のリハビリ山行(奥多摩)を経て、GWは以前から気になっていた山、会津駒ヶ岳🏔️へ行ってきました。

こんなとこ。



(これで、例年より1mは積雪量が少ないそうです。)

前日、素泊まりのみの山小屋「駒ノ小屋」に予約を入れると、GWにも関わらず、予約はおれを入れて5人だけ、とのこと。ルートは、当初は秘かに、「御池→(縦走)→会津駒→(下山)→会津駒登山口」を狙ってはいたものの、小屋の人に聞くと、このルートは5月上旬がまさに雪崩🌨️のオンシーズンとのことなの

で… 🏠

なんのためらいもなく方向転換。一般的な会津駒登山口の往復と決めて、出発!! 🍗

さて、登り始めてすぐに4人組パーティーと挨拶。この4人組が、今夜同じ小屋での宿泊客だった。そして、おれが明日は同じルートを下る予定だと伝えると、リーダーらしきおじちゃんが

「このルートの往復だけじゃもったいないから、明日は三ツ岩岳経由で一緒に下山しませんか？」

と暖かい言葉をかけてくれた。(あとから聞いた話、普段は見知らぬ人をパーティーに混ぜるのは抵抗があるそうだけど…。) おれにとっては、まさに天の声。山の神様、ありがとう ✨

ひとまず、ここはこのパーティーを追い抜かせてもらい、先に山頂を目指す。途中から雪道となり、アイゼンを装着。この樹林帯の中を、山スキーで下ってくる人も多く、いつかやってみたいなど、ここはイメトレ!!



さて、登山口から駒ノ小屋まではちょうど3時間。気立てのよい奥さんに出迎えられ、部屋に案内してもらおうと、今夜は8人部屋を1人で使わせてもらえる、とのこと。ラッキー 🎵 本来の定員30名という規模からしても、アットホームな感じの山小屋で、天井に吊り下げられたランタンが、なかなかいい味出していました ✨

夜になると、こんな感じ。



(わかりにくい!?)

ちなみに、この山小屋のご夫婦は、一昨年まで別々の山小屋で働いていたそうだけど、縁合って昨年からこの小屋番を任せられ、以来夫婦で仲睦まじく働いている。本当にこの山の生活を満喫しているのが伝わってくる人たちだった。翌日、見送ってくれるときは、いつまでもいつまでも手を振ってくれるようなお人柄だったしね 🏔️

さて、小屋で昼食を食べてから、山頂へ。



視界はごらんのとおり、真っ白。やっぱりね。。。 🤔

でも、これだけ雪があっても、5月だけあってそこまで寒くはない。天気はイマイチだけど、遮るものがない、白銀のパノラマでした ✨

その後、中門岳を目指して歩きはじめる。



これがけっこう気持ちいい。しかも周りに誰もいないし、鼻歌が、自然と大音量の歌声に変わってみたいり 🎵

夏なら、穏やかな稜線を歩いた先に、大湿原が広がっているはずだけど、今はまだまだ雪に覆われている季節。中門岳の標識は何もなく、ただ雪の丘を登ったな、とそんなところでした 🤗🤗🤗

これ、中門岳手前につけた、マイ足跡 📍



ふと足元に、小さな生命力を発見!! こんなところに…。
がんばれっ 📍📍



その後、小屋に戻ると、例の4人組パーティーの宴会が始まっていた🍺🍷 先ほど話しかけてくれたリーダーは、栃木県益子の山岳会に所属しているようで、退職後の今は、3日に1度は山に入っているという、かなりの熟練者。でも、とても穏やかな方でした。そして、残りの3名は職場が同じという中高年仲良し3人組。

その横で夕飯を作りながら、明日のルートについて聞いてみると、会津駒～三ツ岩岳は、冬山期間でしか歩けないとされる場所らしく、確かに周辺地図を見てみれば、北側の稜線をたどった先に、あった👂👂 (ちなみにおれの地図は、印刷の都合上、三ツ岩岳は記載されていませんでした。。。🙄)

そんな穴場ルートに足を踏み入れられるとは!! ほんと、快く受け入れてもらえたことに、感謝感激!!🙏

そして、この日は20時の消灯まで、楽しいお酒の時間に🍷
(しかも本日は、山男らしく、ウイスキーをいただきました🍷)

5/5(火)

11:00: 登山口バス停(930m)

11:20: 登山口(1110m)

12:25-12:30: 休憩(アイゼン装着)(1450m)

14:00-15:00: 駒ノ小屋(昼食)(2060m)

15:10-15:20: 会津駒ヶ岳(2133m)

16:00-16:05: 中門岳(2060m)

17:00: 駒ノ小屋

翌朝。日の出は 4:34。もちろん目覚めたものの、窓の外は真っ白。御来光は期待できず、ふたたび布団の中で、ぬくぬく🌨

しかし、朝食をすませ、いざ出発というときに青空が🌤 小屋の南側からは、尾瀬の燧ヶ岳を拝めるナイススポット🌟🌟



本日は 4 人組パーティーに混ぜていただき、出発👋。しばらくして山小屋を振り返れば、山小屋のご夫婦が両手を振って見送ってくれていた。お世話になりましたー👋



さて、残雪期の稜線は、風の影響で、風下の谷側に雪が吹きかたまる「雪庇(せっぴ)」が目立つ。雪庇の下は空洞になることが多く、雪庇と気づかずに、その上を踏んでしまった時には、雪崩を起こしてしまうかもしれない…😬

(と、リーダーが丁寧に教えてくれた。あらためて勉強📅)



(この写真の右側なんかが、特に雪庇と思われる。左側(=実際は西側)から吹く風の影響で、こうなってしまいます。)

というわけで、稜線からやや西側の樹林帯を歩いた。樹林帯は風がないのはありがたいけど、非常に歩きにくかったり。。。😬 そして、気がつけば、あっという間に青空はどこかへ行き☁️、真っ白。風はビュービュー。



たとえ稜線をたどれば問題ない、とわかっていても、やっぱり不安。

時折、乱れた足跡が残された形跡も 😓 それでも、4人組パーティーの的確な判断で、無事に三ツ岩岳を登頂。山頂には、久しぶりに見た人工物が。



(&紅茶んさんお気に入りの三角点も、雪の中から頭だけ出していました。)



三ツ岩岳は展望もなく、記念撮影後はさっさと下山。

ここからは尾根沿いに雪道の下山。アイゼンを履いていればリズムよく下れてしまう。膝への負担も少なく、10分間で標高 250m を下ってる我々一行。おおっ、ワンダフル 🏔️➡️

避難小屋で昼食を取り、ふたたび雪道下山。



道中では、霞がかかったブナ林も幻想的でした。



標高 1300m 地点でようやく雪も少なくなり、一度夏道が見えてきたら、あとはひたすら下り道。しかし、この尾根。えらく急 🏔️ そのうえ、落ち葉もあって滑り落ちそうになったけど… 😬

でも所々に、5月ならでわの花も見られ、新緑も揺れ、さっきまでの冬山はどこへ行ったのか、穏やかな春山を楽しみながら下山できました。



(↑これはイワウチワ。葉がうちわの形をしているのが特徴!!)

4人組は野山の植物にも詳しく(=植物の名前は、植物に詳しい人と歩かないと覚えられないね🤔)、また、天ぷらにして食べるとおいしいと言われた山菜(コシアブラ、フキ)を摘んでいただき、お土産としていただきました🍗

「東京の人は、コシアブラなんてわからないよね」と言われたけど(=おっしゃるとおりです💧)、こういう山の楽しみ方ができるのもステキだな、と実感。でも、かなりの経験が必要だね👉

その後、4人組の車で鬼怒川温泉👉まで送っていただいた。本当に至れり尽くせりですみません。。。🍗
でも山での、旅先での出会いは、もうドラマだね👉

5/6(水)

6:20: 駒ノ小屋(2060m)

6:40-6:45: 会津駒ヶ岳(2133m)

7:40: 大戸沢岳(と思われるところ)

9:45-9:50: 三ツ岩岳(2060m)

10:05-11:05: 避難小屋(昼食)(1780m)

11:55-12:05: 休憩(アイゼンを脱ぐ)(1300m)

12:50-13:00: 休憩(995m)

13:30: 登山口(785m)

こうして、楽しい楽しい思い出とともに帰宅し、山道具の片付けもひと段落終えたところで、気づいてしま
った… 🤔

ないっ… 🤔🤔

コシアブラがないっ… 🤔🤔🤔

うわあ 🤔🤔🤔🤔

鬼怒川温泉で買ったおみやげ共々…、

電車の網棚に忘れた… 📵📵📵📵📵

ちーん… 😞

気づいてすぐさま、東武線(浅草駅)に問い合わせたけど、結局見つからず 😞 なんでこういうオチがつい
てしまうんだろう…。

皆様、申し訳ございませんでした m(_ _)m

かろうじてデジカメ📷の中に、やや失敗気味に撮影したコシアブラが残っていたので、それを思い出とさ
せていただきます。



ちゃんちゃん。

※今回の山行のフォトアルバムはこちら

http://mixi.jp/view_album.pl?id=32148906&owner_id=6743162&mode=photo